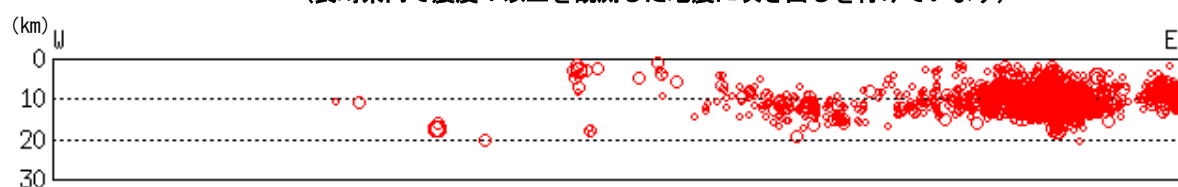
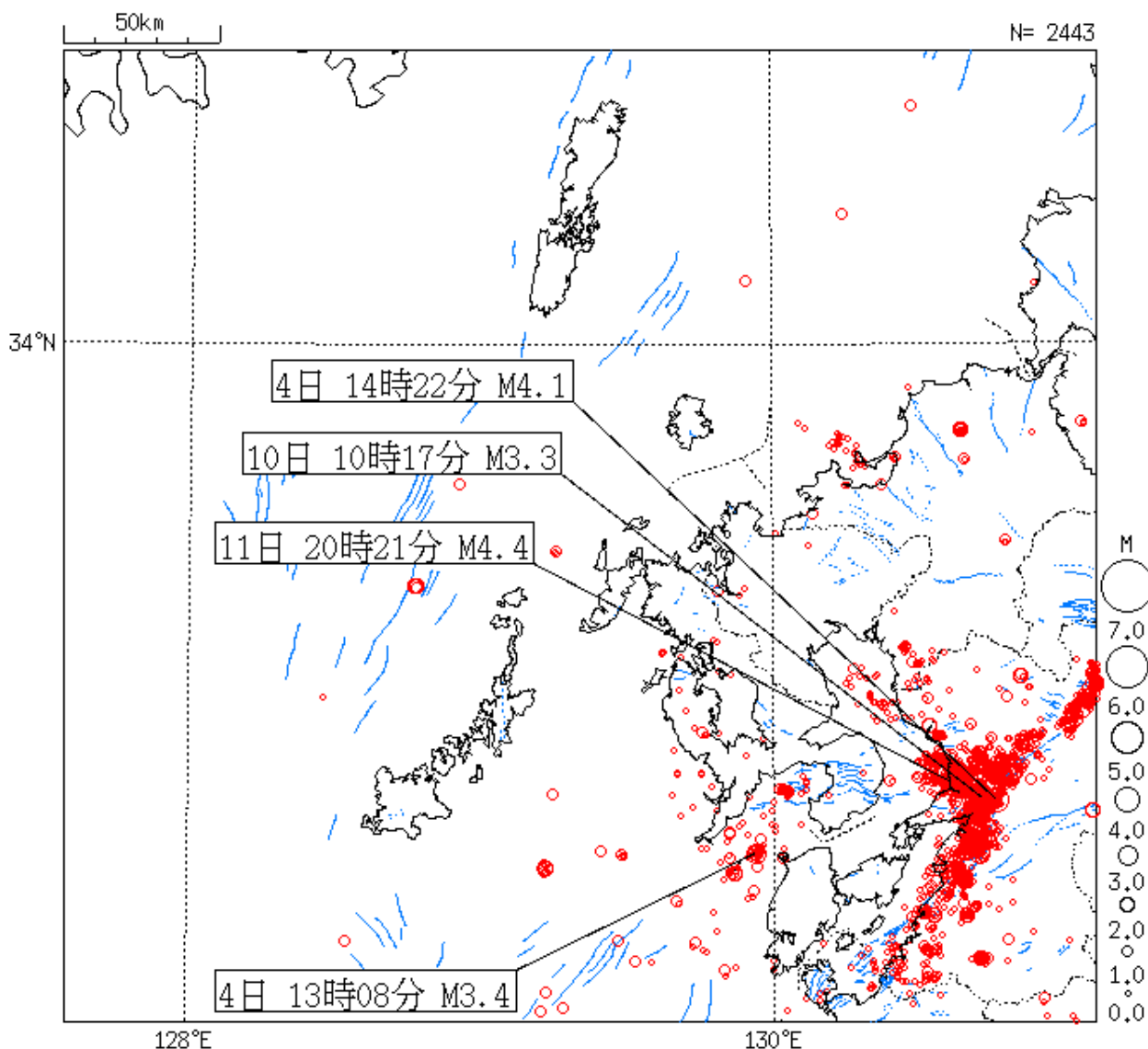


長崎県の地震活動概況（2017年5月）

平成29年6月9日

長崎地方気象台



※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による)。

※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成している。

地震活動の概況（2017年5月）

5月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は4回でした（4月：5回）。震央地名は天草灘、熊本県熊本地方、有明海でした。詳細は以下のとおりです。

天草灘

4日13時08分に天草灘で発生したM3.4の地震（深さ12km）により、熊本県で震度2を観測したほか、熊本県、長崎県で震度1を観測しました。長崎県では長崎市、諫早市、雲仙市、南島原市で震度1を観測しました（図1）。今回の地震の震源付近（図2領域a）で発生した地震により、長崎県内で震度1以上を観測したのは、2016年7月22日に発生したM3.2の地震（深さ12km、最大震度1、長崎県は長崎市で震度1）以来です（図2、図3）。

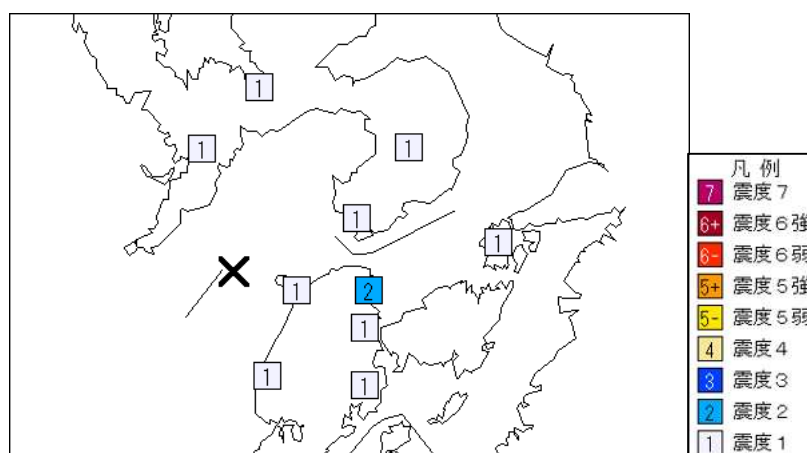


図1 震度分布図（観測点別、×：震央）

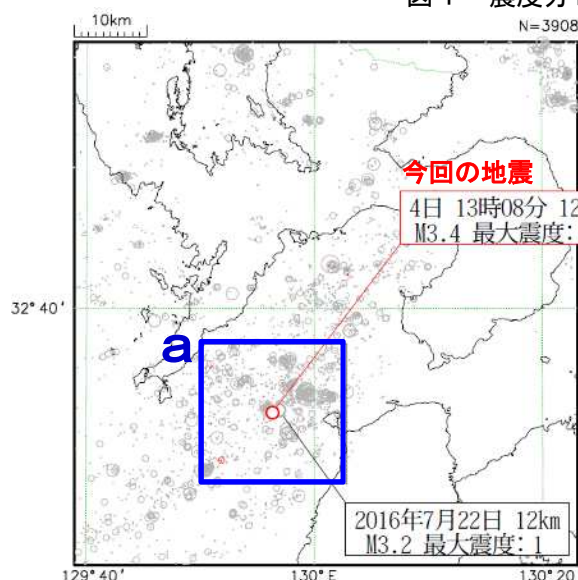


図2 震央分布図

（1997年10月1日～2017年5月31日

深さ0km～30km M≥1.0）

※2017年5月の地震を赤で表示

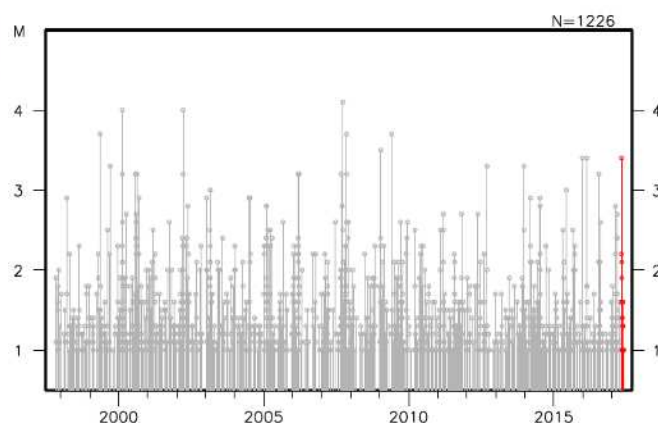


図3 図2領域a内の地震活動経過図

表1 この地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 1	2017年05月04日13時08分 天草灘	32° 32.2' N 129° 56.3' E 12km M3.4
長崎県	1	長崎市元町＊ 諫早市多良見町＊ 雲仙市小浜町雲仙 南島原市加津佐町＊

注1）震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注2）＊を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

平成 28 年 (2016 年) 熊本地震

4 日 14 時 22 分に熊本県熊本地方で発生した M4.1 の地震（深さ 11km）により、熊本県で震度 4 を観測したほか、山口県と九州地方で震度 3～1 を観測しました。長崎県では諫早市、雲仙市、南島原市で震度 1 を観測しました（図 4）。

10 日 10 時 17 分に熊本県熊本地方で発生した M3.3 の地震（深さ 17km）により、熊本県で震度 2 を観測したほか、熊本県、長崎県で震度 1 を観測しました。長崎県では雲仙市で震度 1 を観測しました。

11 日 20 時 21 分に有明海で発生した M4.4 の地震（深さ 13km）により、熊本県で震度 4 を観測したほか、九州地方で震度 3～1 を観測しました。長崎県では雲仙市で震度 3 を観測したほか、諫早市、大村市などで震度 2 を、佐世保市、長崎市などで震度 1 を観測しました（図 5）。

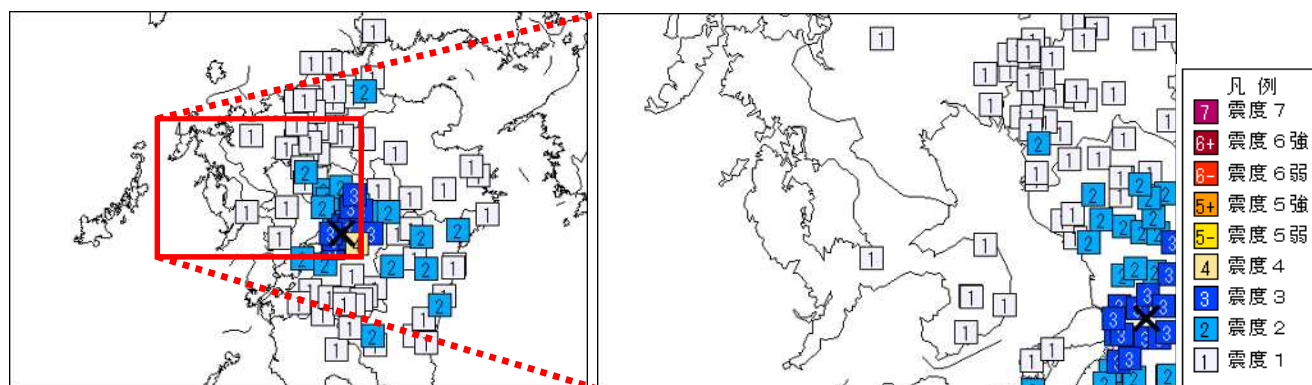


図 4 震度分布図（左図は市区町村別、右図は観測点別、×：震央）

5 月 4 日 14 時 22 分 M4.1

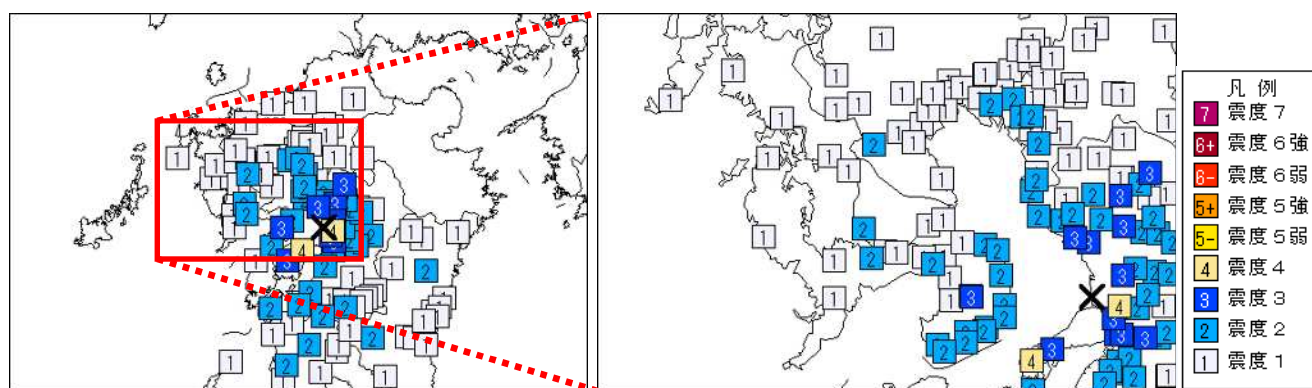


図 5 震度分布図（左図は市区町村別、右図は観測点別、×：震央）

5 月 11 日 20 時 21 分 M4.4

表2 これらの地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 2	2017年05月04日14時22分 熊本県熊本地方 32° 40.9' N 130° 45.3' E 11km M4.1	
長崎県	1	諫早市多良見町* 雲仙市国見町 雲仙市小浜町雲仙 雲仙市雲仙出張所* 南島原市北有馬町* 南島原市深江町*
No. 3	2017年05月10日10時17分 熊本県熊本地方 32° 41.3' N 130° 42.5' E 17km M3.3	
長崎県	1	雲仙市小浜町雲仙
No. 4	2017年05月11日20時21分 有明海 32° 44.0' N 130° 36.2' E 13km M4.4	
長崎県	3	雲仙市小浜町雲仙
	2	諫早市多良見町* 大村市玖島* 島原市下折橋町* 島原市有明町* 雲仙市国見町 雲仙市愛野町* 雲仙市雲仙出張所* 南島原市口之津町* 南島原市南有馬町* 南島原市北有馬町* 南島原市西有家町* 南島原市布津町* 南島原市深江町* 南島原市加津佐町* 南島原市有家町*
	1	佐世保市干尽町 佐世保市鹿町町* 平戸市志々伎町* 東彼杵町蔵本* 川棚町中組* 長崎市元町* 長崎市神浦江川町* 諫早市東小路町 諫早市小長井町* 諫早市堂崎町* 諫早市森山町* 諫早市高来町* 長与町嬉里* 西海市西海町* 雲仙市千々石町* 雲仙市瑞穂町* 雲仙市吾妻町* 雲仙市小浜町北本町*

注3) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注4) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

「液状化現象」について

液状化現象とは、地震により強く揺らされた地面が液体のようになる現象で、水を多く含んだ砂の地盤や埋立地などで起こります（図1）。液状化現象が起こると、その上に建てられたビルや電柱が傾いたり、地中の土管やマンホールが浮き上がったったりするなど、私たちの生活基盤にも大きな被害が出る場合があります。

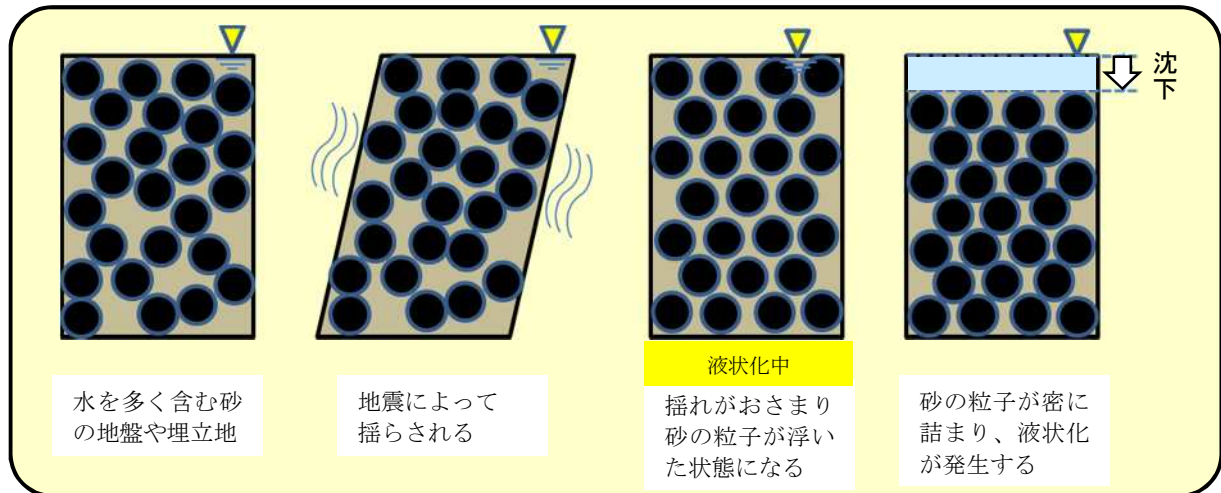


図1 液状化が発生するまでの流れ
（東京大学出版会「日本の液状化履歴マップ 745-2008」を基に加筆）

この液状化現象により、1964年の「新潟地震」では河畔の住宅が大きく傾いたり空港の滑走路が冠水したりするなどの被害が出たほか、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」でも東京湾に面した市街地で地中のマンホールや貯水タンクが地表に浮き上がるなどの被害が出ました（写真1）。九州では、2005年3月20日の福岡県北西沖（当時の震央地名は福岡県西方沖）の地震や平成28年（2016年）熊本地震でも液状化による被害が発生しました。

長崎県は、「長崎県地震等防災アセスメント調査報告書（平成18年3月）」により、県内で液状化の危険性が高い場所を示した地図を作成しています（図2）。

http://www.pref.nagasaki.jp/sb/preparation/001/assessment/pdf/nagasaki_pref_seismo_assessment.pdf



写真1 浮き上がった防火水槽のマンホール（千葉県浦安市）
（平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震現地調査報告より）

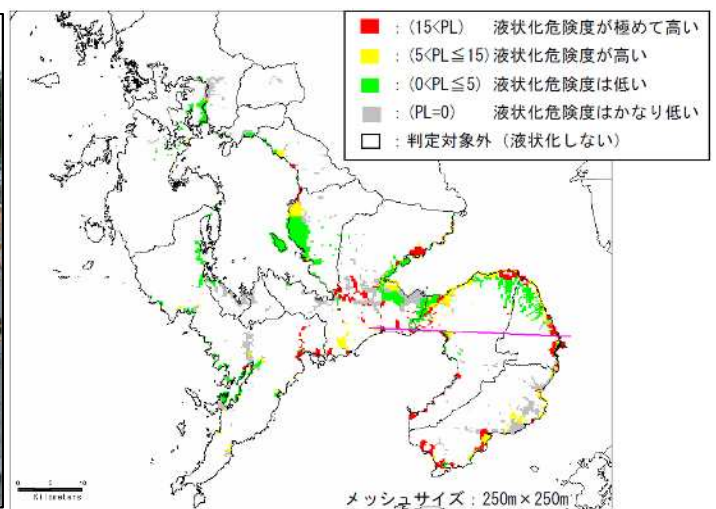


図2 液状化危険度の分布（雲仙地溝北縁断層帯）
（長崎県地震等防災アセスメント調査報告書より）